

まえがき

瀬戸市にある海上の森は、愛知万博の会場候補地になり、大変有名になりました。そこはかつての里山であって、広大な森には豊かな自然が残され、多くの愛知県民のオアシスとなっている場所です。わたしたちは、名古屋大都市圏に唯一の残された貴重な自然がある海上の森を心から愛し楽しむかたわら、その保全のためにさまざまな調査をしたり、里で田んぼ耕作をしたり、具体的な保全のための提案をするなどの活動している自然保護団体です。

昨年度（二〇〇〇年度）の秋から冬にかけて、わたしたちは、「海上の森から考える連続公開講座―森・水・生きもの―」と題する勉強会を企画しました。それは、日頃、海上の森を歩いていても、森の植物生態や動物の生態、その中で水の役割など、わからないこと、疑問に思うことがたくさんあったからです。もう一つは、二〇〇〇年秋の愛知万博検討会議に次いで、将来にわたる海上の森の保全について、愛知県が検討会を開いて話し合う予定になっており、その保全策を考えるために勉強する必要があったからです。

そこで、仲間と相談しながら何人かの講師に相談を持ちかけたわけです。当初は、わたしたち仲間内の勉強会と考えていたのですが、六人もの講師が快く講演を引き受けてくださり、わたしたちだけの勉強会にするのはもったいないと、連続公開講座という形で行ないました。幸いにも、南山大学環境学教室の後援を受け、建設して間もない快適

な瀬戸キャンパスの教室を会場にしてお話をうかがうことができました。大部分の講演は、その午前中に海上の森を講師とともに歩きながら、現場で生き生きとしたお話をうかがいました。それは大変興味あるものでしたが、それが載せられなかったのは大変残念に思います。しかし、毎回の講師の優れた講演内容は、わたしどもにとってもまた参加された皆さんにも、大変大きな驚きと刺激になりました。ところで、最後の田端英雄さんの講演記録は連続公開講座ではありませんが、二〇〇一年一月に仲間内の勉強会でお話いただいたのをまとめたものです。

このような優れた講演を聴講者だけの宝にしておくのはもったいない、是非ともこの公開講座を記録に残して多くの皆さんにその内容を知っていただこうと考え、テープおこしから始まって、講演内容を編集したものがこの冊子です。テープおこしの素原稿は一時間半の講演でA4版で約二十頁にも達し、それを短くをまとめるのは大変でした。そして、大幅に割愛しなければなりませんでしたが、最終的な記録についてはすべて講演者の了解を得ております。この点についても講演者の寛大なご協力を感謝します。ということで遅くなってしまうましたが、ここに皆さんにお届けします。

講演のほとんどは、多くの図や表、写真を使って興味が尽きないように配慮された迫力あるものでしたが、図や写真を載せると膨大な紙数になってしまうということで、二、三の例外を除いて、やむなく言葉だけの記録にさせていただきました。記録された言葉から、その映像などを読み取っていただかなければなりません。それでも、お話の趣旨は十分に伝わると思っています。

「森・水・生きもの」というテーマに即し、それぞれの講師の独自の展開は興味が尽きないので、読者の皆さんは、講師の専門は違っても、またその切り口は違っても、自然の見方に大きな共通点があることをお感じになると思います。本冊子が、海上の森の保全のためのみならず、これからの里山保全のために、また自然保護のために、少しでもお役に立てば望外の幸いです。

お忙しい中で講演を引き受けてくださり、優れたご講演をいただいた講師の方々には、心から御礼申し上げます。表紙の絵は堀田博之さんの作品で、カットは佐藤美保子さん、森川有紀さんのものを、ご本人の了解を得て使わせていただきました。

なお、本誌の出版には、日興コーディアル証券(株)・日興アセットマネージメント(株)の協力によりW F F ジャパンに設立された「W F F ジャパン・日興グリーンインベスターズ基金」助成の一部を使用させていただいたことを申し添えます。

二〇〇二年 二月

国営瀬戸海上の森

里山公園構想をすすめる連絡会